

■件名

酒々井町第6次総合計画について（令和3年2月1日）

■手紙の内容

酒々井町農業改革機構の設置について

町が出資し（町民からの出資も歓迎）大規模機械化農業（可能な限りデジタル化などによる無人化を指向）に転換して生産性の高い農業に切り替えていくと共に、町民には地産地消を徹底してもらう。

即ち、町総ぐるみの自給自足体制の構築戦略であります。（土地を提供した農家は株主になってもらいます）。サプライ企業にも参加してもらう必要もあります。

どんなことが起ころうとも、町民を食糧危機から守る自給自足体制の構築であります。

2：小学生や中学生への歴史教育の強化

今、学校では酒々井学が行われていますが、学校における酒々井学では、教育委員会の学習指導は各学校の選択に任されています。

日本の歴史、印旛郡の歴史について子供達（大人も含む）に学んでもらう、町独自で教育委員会から独立した「酒々井塾」が必要であります。

それは自分の国、自分の故郷に誇りを持ってもらうための教育です。外国からの移民に頼らない自立国家を目指すための基礎がためとして提案いたします。

3：酒々井町医療スポーツ特区の設置

医療はもはや病気治療のための病院ではなくなりつつあります。

そして、近代医療はリハビリセンターやスポーツセンター、森林浴やウォーキングコースやサイクリングコースと連携し、これらはデジタル化とともに、個人の身体と命をリクレーションとして自己管理する新しい産業として進化していくものと考えています。

酒々井町に、しすい病院ができました、また、ちびっ子天国の跡地への病院進出の話も聞いております。

これを基盤に中川から北の上岩橋、下岩橋、柏木、伊篠の地区を「緑豊かなウォーキングロード」のある「酒々井医療・スポーツ特区」とする、また、この地区からの歳入の増加を図っていくとともに、子育てしやすい酒々井の基盤づくりと関連プロジェクトにしていくことを提案します。

4：専業主婦の多い子育ての町づくり

前の東京オリンピック以降は外国労働者の受け入れの前に、女性の働く場所（非正規労働者として）が多くなり、賃金の低下を促してきた。そして、専業主婦はむしろ世間では肩身の狭い社会風潮を作りあげた。

また、家庭内放置された子供達は社会人としての基本的マナーや日本古来の習慣まで知らない大人に育ってしまいました。

専業主婦は子育ての専門家として、また、人口減少を防ぐための社会基盤維持のための重要な仕事であるとの認識ある社会を作り上げなければなりません。

まず、このことが町民に定着するプロパガンダとして、総合計画に大きく取り上げることをお願いします。

また、沢山の子供が伸び伸びと育つ町を作りあげるためやらなくてはならない方策は沢山あります。

町民会議を開くなどして知識を集約し、計画へ移行していくためのプロセスを総合計画に組み込んでいただきたい。

■回答

町は、現行の「第5次酒々井町総合計画」の計画期間が、令和3年度で終了することから、新たに令和4年度よりスタートする「第6次酒々井町総合計画」の策定にあたり、地域住民の安全安心の確保を最優先とし住民福祉のより一層の向上とともに、町内の均衡ある発展を進めていく必要があることから、住民の生活や意識の変化、ニーズなどを的確に把握し、広く住民の意見を把握させるため、住民意識調査や町内の各分野の代表者、各自治会長等へのアンケート調査、公募町民などによる「総合計画等策定懇談会」など「第6次酒々井町総合計画」策定に向け本格的に着手したところです。

「第6次町総合計画」の策定にあたり、この度、ご提案いただきました内容を参考とさせていただくとともに、住民の皆様や町の各分野、自治会など様々なご意見を基に、多種多様な時代へ対応可能な計画づくりを進めてまいります。

担当課：企画財政課